

PQUEST News

Vol.1
2006.12

ピケストニュース

管路品質評価システム協会

〒105-8450 東京都港区虎ノ門 2 丁目 3-17
虎ノ門 2 丁目タワー積水化学工業株式会社内
Tel.03-5511-0034 <http://www.pquest.org/>

Pipeline Quality Evaluation System Thinking-Association

“北の大地の管路”を守りたい!! ~ 苫小牧市のデモ説明会に約 50 名が来場 ~ 衝撃弾性波法による劣化調査・診断システム 協力: 窪田建設

2006 年 11 月 10 日(金)、
当協会会員の窪田建設株式会社と事務局の共催で、
北海道苫小牧市内で衝撃弾性波法による劣化調査・診断システムのデモ説明会を開催しました。



今回は共用中の下水管を用いたデモ調査を披露するという事で、地元の方々の関心が高かったようです。11 月に入って一段と寒さが増した北の大地において、屋外での見学は大変だったと思いますが、それにもかかわらず苫小牧市職員の方々 26 名をはじめ、計 48 名の方が参加してくださいました。

実管路の調査に興味津々...

デモ調査は午前 10 時から、苫小牧市本幸町 1 丁目地先(旧市立病院横)で行いました。窪田建設が所有する実機システムをマンホールから管内に挿入し、いよいよデモ調査のスタート。

実機システムが管路に与えた衝撃でどのような弾性波が生じるのか、弾性波が管路の劣化状況によりどう変化するのか。

やはりこの点に見学者の方々は興味津々の様子で、弾性波の変化を車両に搭載した解析ソフトで画像として映し出すと、車両の周りには人・ひと・ひと...

熱心に見学してくださいました。



質疑応答も活発に...



デモ調査後は苫小牧市役所の会議室に移動し、同システムの概要と、当協会を取り扱っている各種機器について説明しました。

質疑応答の時間には多くの質問をいただき、成功裏にデモ説明会を終えることができました。

参加して下さったのは、苫小牧市下水道部、水道部、都市建設部(26 名)、登別市都市整備部下水道グループ(2 名)、白老町上下水道課下水道事業グループ(2 名)、苫小牧清掃企業組合(4 名)、民間企業から 14 名、計 48 名でした。ありがとうございました。

苫小牧市の下水道...ひとくちメモ

「苫小牧市下水道マスタープラン」では、膨大なストックの効率管理、施設の改築・再構築・地震対策を基本施策として掲げ、短期的に管路情報管理システムの整備、管渠耐震診断・情報データベース整備、また、長期的に管渠施設の改築・再構築に取り組むこととしています。

そうした中、老朽管調査のニーズが高まっており、当協会としては、衝撃弾性波法による劣化調査・診断システムを来年度から仕様化していただけるよう取り組んでいます。

全体計画区域面積 7,063.6ha 下水道普及率 98.6% 管渠総延長 1,332.0km (汚水管渠延長 696.9km、雨水管渠延長 453.5km、合流管渠延長 181.6km) 認可計画(平成 21 年度末)1,775.5km 全体計画(平成 37 年度末)2,221.8km(HP より)

「分かりやすい」と好評！～“実管路”と“模擬管路”を駆使した見学会～

衝撃弾性波法による劣化調査・診断システム 主催：藤野興業、積水化学工業

大阪府富田林市では2006年7月12日(水)、当協会会員である藤野興業株式会社と積水化学工業株式会社が、衝撃弾性波法による劣化調査・診断システムの見学会を開催しました。模擬管路を使った説明と、実管路による調査実演を行ったところ、参加者から「非常に分かりやすかった」と好評でした。

見学会を開催したのは、同市小金台地内です。まず、衝撃弾性波法による劣化調査・診断システムの概要、衝撃弾性波ロボット本体、制御機、搭載車両について説明しました。

その後、250mmのヒューム管、約60m(2スパン)の実管路の調査を実演しました。

今回は、富田林市上下水道部下水道室下水道管理課のご協力により、供用中の実管路を用いた調査の様子をご覧いただくことができました。しかし、いくら実管路の調査とはいえ、管内での衝撃弾性波ロボットの動きは見ていただくことができません。そこで、デモ管路も用いて分かりやすい説明を心掛けました。

その甲斐あって、「模擬管路と実管路の両方での説明を聞いて非常に分かりやすかった」と好評でした。



模擬管路による説明状況



実管路内調査による説明状況

◆ ◆ ◆ 今後に期待の声 ◆ ◆ ◆

大阪府内自治体12 団体・32 名、大阪府内設計コンサルタント10 社・15 名、計47名の方が参加してくださいました。見学会終了後のアンケートでは、「目視調査は調査者によって結果が違う。このようなシステムは今後期待できる」、「劣化状況を数値化できる点は良いと思う」などの感想をいただきました。

見学会を開催した藤野興業は、「今後、自治体発注時における衝撃弾性波法による劣化調査・診断システムの特記仕様記載を目標とした営業活動と平行して、コンサルが通常TV カメラ調査を委託した際の設計変更(施工・調査承認)による衝撃弾性波法受注を当面の目標として活動していきたい」と話されています。

審査証明取得へ秒読み開始！～立会検査を無事終了～

衝撃弾性波検査法

積水化学工業株式会社と株式会社リハビリ・リサーチ・ラボラトリーでは現在、衝撃弾性波法による劣化調査・診断システムについて、下水道管路の検査法として「初」となる建設技術審査証明の取得に向けて取り組んでいます。

2006年10月2日には、積水化学工業栗東工場内において、審査証明の交付団体である財団法人下水道新技術推進機構による立会試験(写真)が、同11月27日には審査会が行われました。既設管の劣化程度を数値化(自立指数)し、定量的な管路診断ができることが確認されました。

順調にいくと2007年3月に審査証明を取得できる予定です。

取得後は技術報告書が各自治体などへ配布され、更に「衝撃弾性波検査法」と明記した発注が可能となるなど、更なる普及拡大につながる事が期待されます。



事務局便り

2006年も早や師走に入り、町にはジングルベルが鳴り響いております。私達のような公共工事に携わる業界は、まさに今から年度末にかけて大忙しの時期を迎えます。

先日、今年の漢字が発表されました。「命」でした。管路調査の現場は、多くの危険と隣り合わせです。忙しくなると「あれっ?」というようなささいなミスで事故を招きやすくなります。

「命」にかかわる事故を起こさないよう、改めて気を引き締め、来年も元気に下水道管路の「命」を守っていきましょう。

<会長> 鎌田敏郎(国立大学法人大阪大学) <会員> 株式会社青山組、株式会社アクア美保、芦森工業株式会社、足立建設工業株式会社、エスジーシー下水道センター株式会社、 鷹技術コンサルタント株式会社、窪田建設株式会社、小林土木株式会社、株式会社島根サニタリ、株式会社湘南合成樹脂製作所、株式会社新日、積水化学工業株式会社、東亜グラウト工業株式会社、東洋建設株式会社、株式会社エスアンドエムテクニカルサービス、エフアールビーサポートサービス株式会社、有限会社日本機工、日本水工設計株式会社、株式会社日本水工、日本ノーディックテクノロジー株式会社、八晃産業株式会社、フォレストコンサルタント株式会社、藤野興業株式会社、株式会社フジヤマ、ペンタフ株式会社、丸伸企業株式会社、株式会社みなと、株式会社ヤマウチ